

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
4	27	二宮靖男	<p>毛利英美子</p> <p>天候：曇り            参加者：20名            報告者：二宮靖男            テーマ：樹の花 野の花 竹林の筍            この日、樹の花、新緑の葉の展開など立夏間近を伝える風景が園内随所に見られました。            ○樹に咲く花・果実            今年の藤棚は、昨年と比べて「隔年開花」の傾向があるのか花数が少ないようでした。C16近くのカワズザクラは早咲きならではの果実の生長ぶりで、早くも赤く染まったサクランボ。ミズキは棚状の枝に白い雪のような花が満開。ユリノキは大木の枝が垂れ下がり、間近な高さで観察、チューリップツリーの美しさにみなさん感嘆。御衣黄（ギョイコウ）は、すでに花後も落花で観察、毛利さんから鬱金との差異なども説明いただきました。            ○野の花            園内草地のオニタビラコ、オオジシバリ、ハルジオンなど多くの野草が花盛り。今回、都市公園では希少なカントウタンポポにスポットを当てて各種の特徴と分布状況など説明しました。日本庭園ではモウソウチクの筍の形状と生長力について、竹林に咲くアヤメ属のイチハツが筍の隣で、美しくコラボしていました。このほかハルガヤのクマリンの芳香、スズメノヤリのタネにつくエライオソームなどサンプルを見せてアリ散布の説明などしました。終了後、公園ボランティアの人の情報で、キンラン、ギンラン、マツバラン、ヒトツバタゴ（ナンジャモンジャノキ）なども確認しました。</p>	 <p>総苞片は反り返らず先端に突起がある</p> <p>カントウタンポポ            カントウタンポポは、総苞外片が反り返らず、先端に突起がある特徴がある。県内には、このほか、セイヨウタンポポ、アカミタンポポ、ウスギタンポポ、シロバナタンポポ、エゾタンポポなどが分布している。セイヨウタンポポなどとの交雑種が多い中、今や都市部では希少な存在である。「レンゲ、タンポポ、スマイレソウ」は、かつて春を彩る代表的な野の花の一つであった。</p>	 <p>葉身            外皮は葉柄にあたる</p> <p>モウソウチク            「竹の秋」という言葉がある。春には筍に養分がいくことで、葉が黄ばみ、落葉する様からこう呼ばれる。俳句の季語でもある。いま、竹の子は旬の食材で、筍御飯、若筍煮、お吸い物、とれたては刺身にもなる。筍は「竹冠に旬」と書く。一句は10日のこと。筍は10日で竹になる成長力を言い表している。松竹梅でおなじみの瑞祥植物である。</p>	

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
5	25	佐藤善治	<p>久保雅春</p> <p>天候：晴れ            参加者：16名（30名程度の申込があるものの、当選者を20名に絞った後、キャンセルあり。今後はキャンセル待ちを5名程度とれらばどうか）            報告者：久保雅春            テーマ：初夏の景観を楽しむ            日差しが強く、初夏の景観を楽しむことが出来た。            ○人数が16名となったため、2班に分け、間隔を開けてガイドした。            ○常緑樹の葉っぱの入れ替えを楽しんだ。クスノキ、サンゴジュ、サザンカ、ツバキ、シラガシなど。            ○俳句の季語を楽しんだ。初夏の季語（楠若葉、楠落葉）、春の季語（竹の秋）            ○シャリンバイとトベラノキを対比して観察した。            ○木本の花、実を楽しんだ。ハコネウツギの花、ヤマボウシの花、サツキの花、スイカズラの花、クワの実、ロウバイの実など。            ○サツキとツツジを生育場所から対比して、葉の大きさ、背の高さを比較して観察した。            ○草本を楽しんだ。花としてはコウゾリナ、ニワゼキショウ、ノミノツヅリなど。残念ながら、アヤメは花が終わっていた。写真にて、アヤメ、ノハナショウブ、カキツバタを比較して、特徴・生育場所を確認した。            ○水生植物の花を楽しんだ。スイレン、コウホネ。            ○最後に万葉植物園のマルバウツギの花に思いを馳せ、「夏は来ぬ」の歌を合唱して終えた。</p>			<p>今日歩いたコースは・・・5月25日(土)</p> 
<p>常緑広葉樹と言っても、同じ葉が何年にも亘ってついているのではなく、定期的に新旧交代が行われている。すべての葉が入れ替わるサイクルは樹種によって異なるが、クスノキの場合はほぼ一年交代となり、5月初旬～中旬のこの時期に一年間使い古され、落とされてしまう葉を「楠落葉」、それと入れ替わるように新たに展開する葉が「楠若葉」と呼ばれ、どちらも俳句の世界では初夏の季語になっている。</p>				<p>江戸時代に幅広く愛好された園芸植物のひとつにツツジがある。当初、ツツジとサツキは一つの括りにされていたが、1692年（元禄5年）に江戸近郊染井村植木屋伊藤伊兵衛が著した「錦繡枕」という書物の中でツツジとサツキが明確に分けられた。サツキは旧暦5月（現在の6月頃）に咲くのでそう名づけられた。            さて、葉の大きさに注目。ツツジに比べてはるかに小さく、細長く、樹高も低いのが特徴。これはツツジ（ルーツは山沿い）と異なり発生のルーツが常に増水の危険のある溪流沿いにあるため。</p>		

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
6	22	辰尾俊明	<p>渡辺英城</p> <p>天候：晴れ 参加者：18名 報告者：渡辺英城 テーマ：迷木巡り～樹木の形の違いを探る～</p> <p>梅雨期が近づき天候が心配されましたが、幸いこの日は好天に恵まれました。人数は18名でしたが、みんなで観察し考える、という部分に重点を置きましたので、班分けなしで進行了しました。(但し、小型拡声器1台使用)</p> <p>内容としましては、これまでに公園内で見つけた変わった樹木(姿形、枝振り、根張り)の樹木を数点観察することをメインとし、併せてその他の樹木において、樹形、枝、葉の付き方など形態の違いについて比較しました。</p> <p>またこの時期の花として、定番であるアジサイの観察と、参加者のお子さんの見つけたキノコ(イグチ科)など観察。&lt;観察した主な動植物&gt;</p> <p>モミ、キンモクセイ、ピラカンサ、ヤマハゼ、アジサイ、サルスベリ、イロハモミジ、モチノキ、サクラ、エノキ、ムクノキ、ヒイラギモクセイ、ヒマラヤスギ、スダジイ、サワラ、タラヨウ、ユリノキ、カイヅカイブキ、キノコ(イグチ科)、ムクドリなど</p>			
			<p>6月の花 アジサイ</p> <p>ガクアジサイ(額紫陽花) アジサイ科 アジサイ属</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分布 本州、四国の沿海地の林に分布</li> <li>・花期 6～7月</li> <li>・名前の由来</li> </ul> <p>両性花の集まりを囲う装飾花を額に見立てたことからガクアジサイの花序全体が装飾花に変化したものが、アジサイ(ホンアジサイ)と呼ばれます。園芸の世界では、装飾花が花序の周辺部を縁取るように並ぶものを「額咲き」と呼び、花序が全て装飾花となったものが「てまり咲き」と呼ばれます。</p>	<p>針葉樹と広葉樹</p> <p>左 モミ(樅) マツ科 モミ属</p> <p>右 キンモクセイ(金木犀) モクセイ科 モクセイ属</p> <p>樹木は種類やグループの違いにより姿形が違い、また環境の違いによっても個別の樹木により姿形が異なります。公園内には沢山の樹木がありますが、中には不思議な形をした樹木があります。変わった姿形の樹木を観察し、どうしてそうなったのか考えてみましょう。</p> <p>○キーワード：『頂芽優勢』 頂芽の成長が優先され、側芽の成長が抑制されている状態のこと</p>		
9	28	善宝	毛利			
10	19	河野	鈴木			
11	23	芳野	辰尾			
12	21	二宮	善宝	冬越しの生きもの、冬芽、ロゼット、虫たち		
1	25	渡辺	芳野	バードウォッチング		
2	22	松本	佐藤			
3	22	久保	河野			